

福井県南条町で採集されたアカトンボ属の種間雑種

長 田 勝*

1986年9月28日、福井県南条郡南条町西大道でアカトンボの観察会が行なわれた。この時、森川直哉・八木崇行の両君(当時、福井市足羽小学校6年生)によって種間雑種と思われる雄1個体が採集された(図1)。

この個体は腹長27.0mm、後翅長31.5mmで、主な形態的特徴は次のとおりである。

- ① 顔面には明瞭な眉斑がある(図2)。
- ② 翅端部にはノシメ型の褐色斑がある。ただし、ノシメトンボ、コノシメトンボ、リスアカネよりも淡色で、マユタテアカネ♀のノシメ型に似る。
- ③ 翅胸側面の斑紋は図3に示したとおりで、第1側縫線上の黒条は翅胸上端に達せず、この点ではリスアカネに共通する。しかし、この黒条はリスアカネにくらべ著しく細い。
- ④ 尾部上付属器は先半が強く屈曲し、マユタテアカネによく似る(図4)。

以上のことから、この個体は日本産アカトンボ属の既知のいずれの種にも該当せず、種間雑種と考えるのが妥当と思われる。顔面には眉斑があり、胸側第1黒条が上端に達せず、尾部上付属器が強く屈曲するという形態的特徴から、この種間交雑の組合せはマユタテアカネ×コノシメトンボ、あるいはマユタテアカネ×リスアカネのいずれかと推定された。

朝比奈(1981)はマユタテアカネ×コノシメトンボの交雑個体について詳細に報告しているが、今回、南条町で得られた個体はこの報告と諸々の点で一致しており、また、マユタテアカネ、コノシメトンボとともに尾部上付属器が強く上反する点からも、南条町の交雑個体はマユタテアカネ×コノシメトンボの組合せによるものと判断してよいと思われる。ただし、朝比奈(1981)も認めているように下唇中片が淡色でコノシメトンボとは異なる点は、南条町で得られた交雑個体においても同様である。

なお、山本(1965)が*Sympetrum* sp.として報告した個体は眉斑の有無は記されていないが、翅胸側面や尾部付属器の図から判断すると、マユタテアカネ×コノシメトンボの交雑個体と思われる。

アカトンボ属の種間交雑が生じる場合、分類上、同じ属にあっても近縁種同士ほど交雫が起こりやすいと思われ、また近縁種同士が同一空間に多数存在すればするほど交雫の確率は高くなるであろう。石川(1979)は東京都八王子市で採集された交雫個体をマユタテアカネ×リスアカネの組合せによるものとして報告し、のちに朝比奈(1981)によってマユタテアカネ×コノシメトンボの交雫個体と訂正された。この交雫個体が採集された場所はコノシメトンボが多産し、マユタテアカネも普通に見られるが、リスアカネはきわめて稀とのことである。南条町西大道における観察ではアカトンボ属が6種見られ、それぞれの個体数はアキアカネ>マユタテアカネ>ナツアカネ・ノシメト

* 福井市立郷土自然科学博物館

ンボ・コノシメトンボ・リスアカネの順で、マユタテアカネは多産し、コノシメトンボは普通に見られ、リスアカネは少なかった。

終りに、交雑個体を採集し、標本を博物館に寄贈することを快諾された森川直哉・八木崇行の両君、それにこの交雑個体を見て頂き種々ご教示くださった朝比奈正二郎博士に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 朝比奈正二郎. 1981. 蜻蛉類に於ける種間雑種(第2報). Tombo, 24(1~4) : 17-22.
石川 一. 1979. 高尾山麓で採集されたアカネ属の種間雑種. 昆虫と自然, 14(6) : 61.
山本悠紀夫. 1965. 定光寺のアカトンボ属. New Entomol., 14(2) : 1-2.

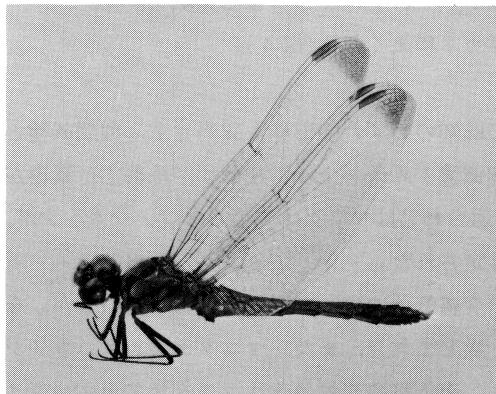


図1 アカトンボ属の種間雑種

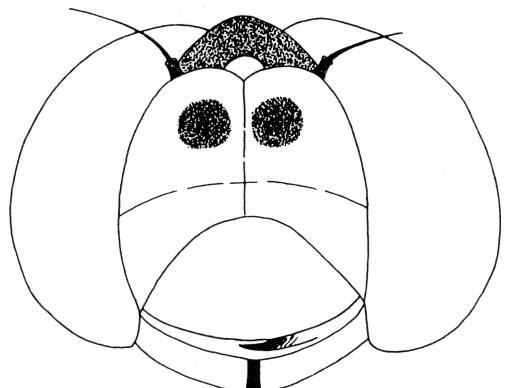


図2 頭部顔面



図3 翅胸部側面

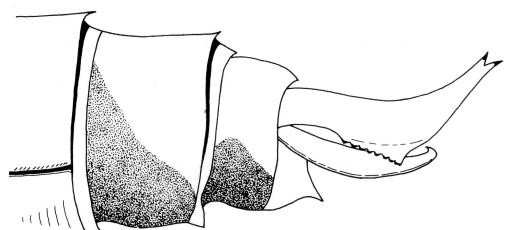


図4 尾部付属器